

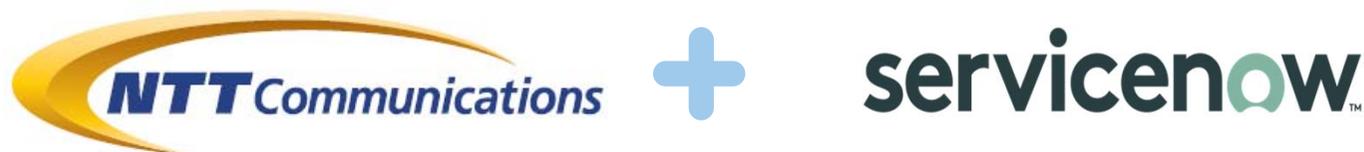
多方面から捉える Tenable×ServiceNow SecOps VRの連携効果

NTTコミュニケーションズ株式会社
ICTコンサルティング本部 松山 哲大



1. なぜNTT ComがServiceNowなのか？

ServiceNow日本国内初のデータセンターをNTT Comが提供しています



2019/07/25 発表！

ServiceNow社は日本国内にデータセンター(クラウド基盤)を開設。
NTTコミュニケーションズの東京・大阪「Nexcenter」内に
サービス・インフラを構築し、日本基盤でのサービス提供を開始。

- データの保持を日本国内で完結
- Nonstop Cloudアーキテクチャーによる完全冗長化
- 99.9996%を超える可用性
- 大容量かつ高品質・高信頼なネットワーク環境や高い耐災害性を備えた基盤



servicenow ソリューション プラットフォーム お客様

ServiceNow Japan、日本のお客様のニーズを満たすために、東京と大阪に国内初のデータセンターを開設し、サービスの提供を開始

NTT Comの「Nexcenter™」を活用したServiceNowの国内初のデータセンターにより、国内でのデータ保持を実現し、日本のお客様の働き方改革を加速

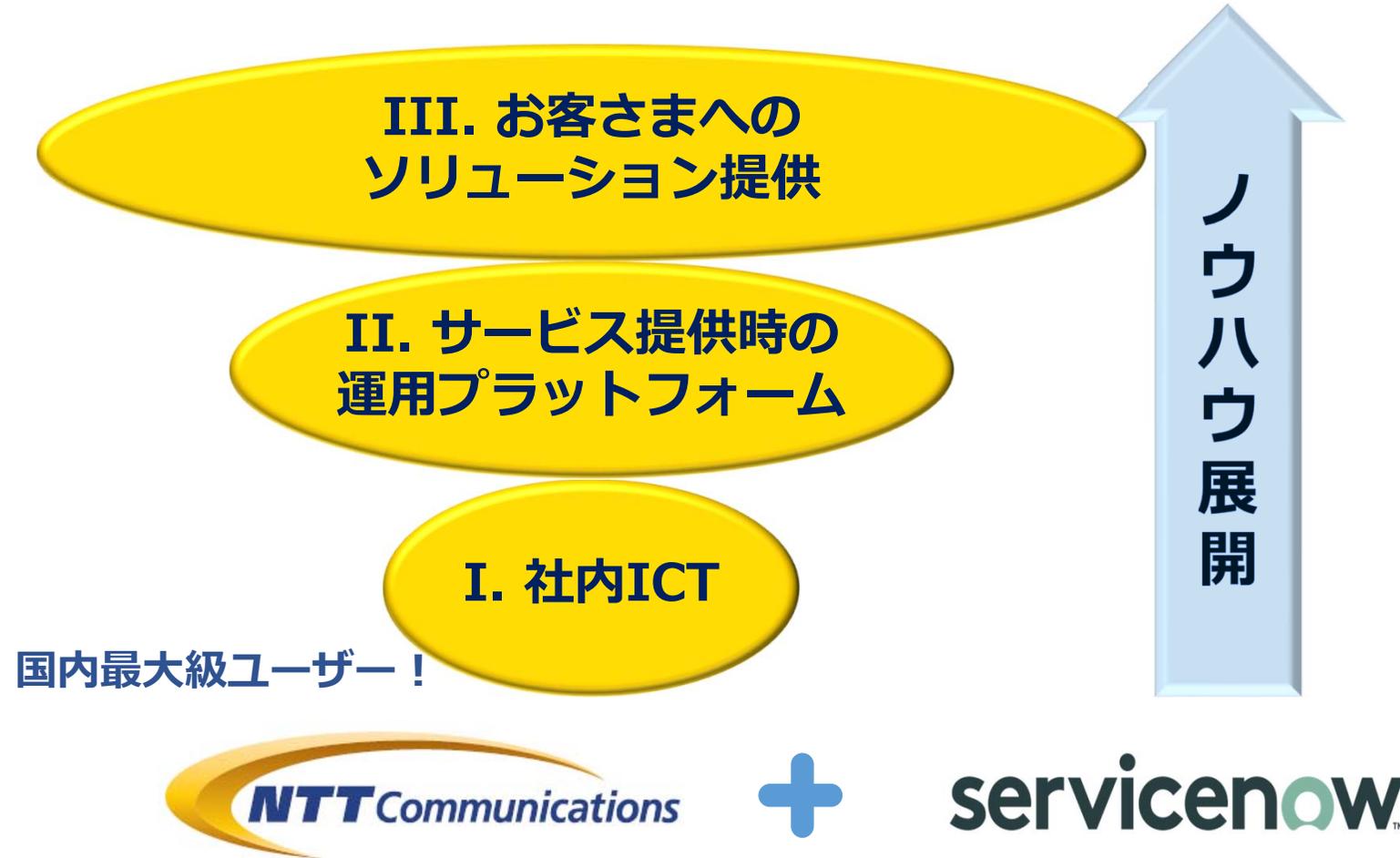
【2019年7月25日】

ServiceNow Japan株式会社（本社：東京都港区、社長：村瀬 啓彦 以下、ServiceNow Japan）は、国内初となるデータセンターを東京と大阪にそれぞれ開設したことを発表します。国内2か所のデータセンター開設により、デジタルトランスフォーメーションや働き方改革を推進する日本国内のお客様をさらに支援します。

東京と大阪のペアで構成された国内のデータセンターは、五大洲にある18（9ヶ所）のデータセンターで構成されたServiceNowのグローバルインフラストラクチャを拡張するもので、高性能で高可用性のクラウドサービスを提供し、国内でのデータ保持といった日本のお客様のニーズを満たします。また、大容量かつ高品質・高信頼なネットワーク環境や高い耐災害性を有するNTTコミュニケーションズ株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：庄司 晋也 以下、NTT Com）の「Nexcenter™」の活用に加えて、ServiceNow独自の先進的な高可用性アーキテクチャや強固なセキュリティの実装により、日本のお客様への堅牢なク

2. NTT Comの3つの取り組み

NTTコミュニケーションズでは社内ITシステムの運用や人事系業務でServiceNowを利用しており、そのノウハウを各種サービスの運用やお客さまへのソリューション提供に活用しています。



3. NTT Comの評価

NTT Comはグローバル全体で高い評価を獲得しています

① 「Partner of the Year Award」 受賞

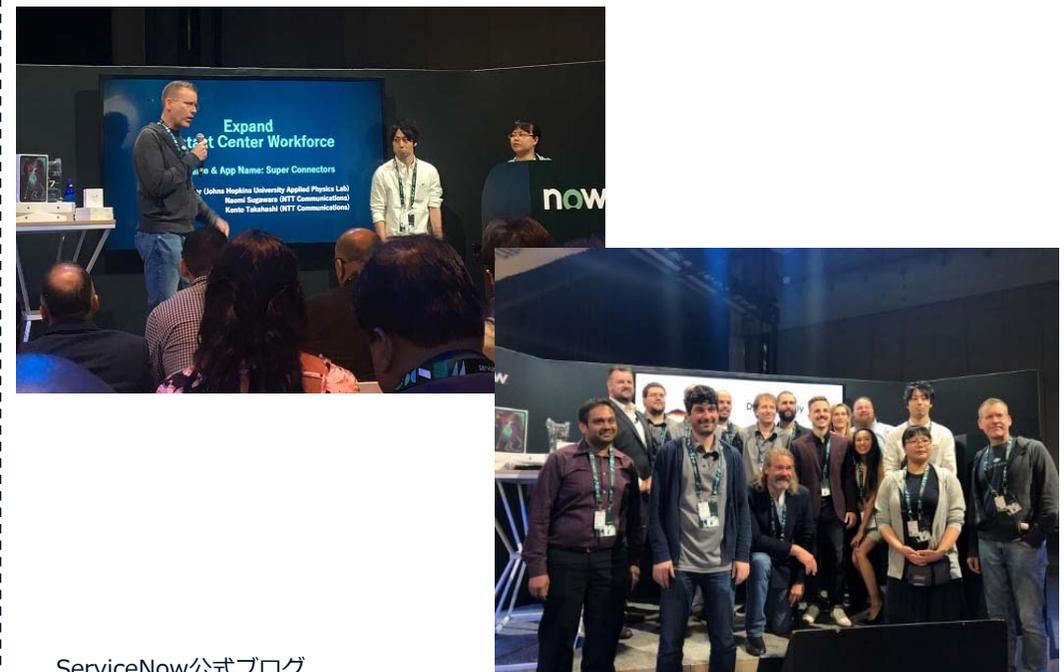
Asia Pacific JapanリージョンでのServiceNowビジネス
ボリュームがNo.1となりAward受賞（日系企業初！）



ServiceNow Japan公式HP
https://www.servicenow.co.jp/company/media/press-room/2019_partner_awards.html

② テクニカルコンテスト表彰受賞

アメリカ本国のServiceNow社イベントで開催された
テクニカルコンテストでエントリー60チーム中**3位**で
見事入賞（日本初！）
NTT Comの技術力がグローバルで証明されています



ServiceNow公式ブログ
<https://blogs.servicenow.com/2019/servicenow-hackathon-winners-2019.html>

4. Tenable社とのパートナーシップ

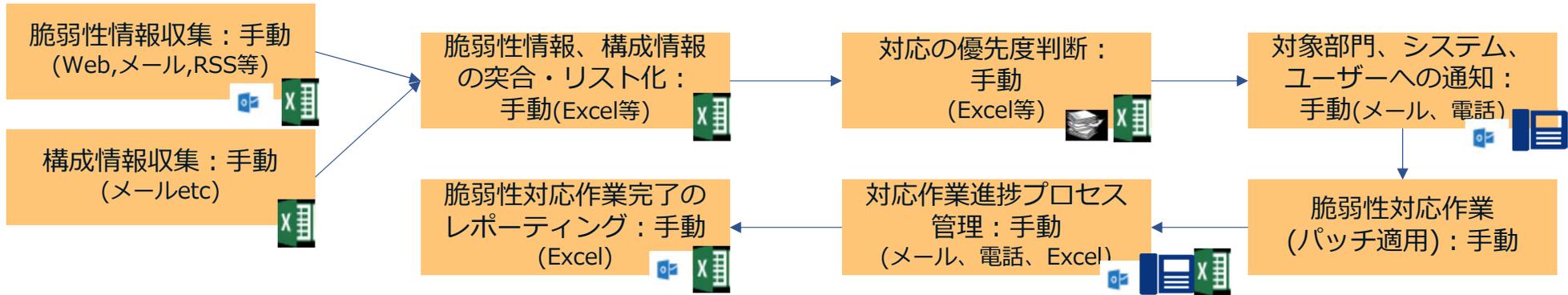
- ✓ グループ傘下でNTT Securityを立ち上げ、Globalレベルでのセキュリティ運用を実現
- ✓ Security Operation Centerによる24時間365日運用
- ✓ Tenable社とオフィシャルパートナー契約
 - マネージドセキュリティサービスプロバイダー契約 (MSSP)
 - 日本では唯一1社のみだけで、パートナーレベルでは最上位
 - NTT Com自社でのServiceNow利用実績をもとに「ServiceNow×Tenable」をマネジメント提供
- ✓ NTT Comでは、Tenable Guardianという最高レベル技術者を1名保有（その他技術資格20名）

servicenow   tenable® Integrated by 

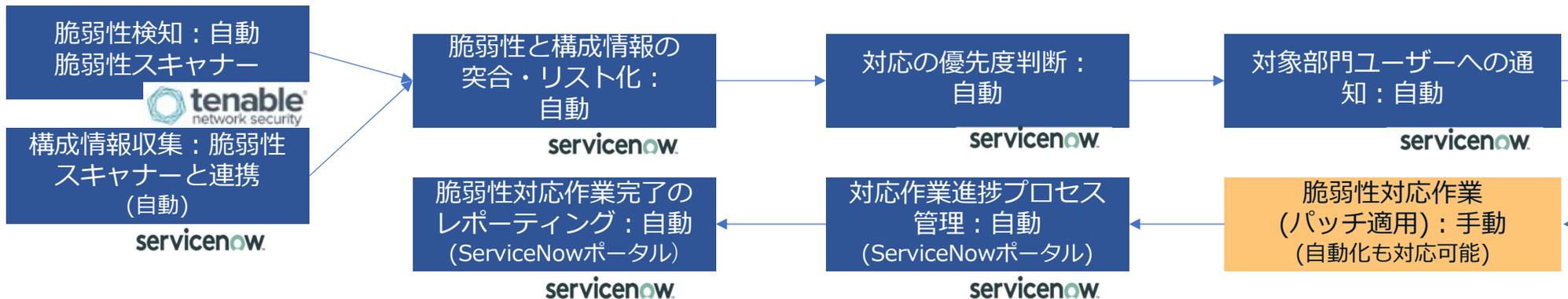
5. TenableとServiceNow SecOps VRの連携効果 ⇒脆弱性対応を自動化

■ : 手動
■ : 自動

<ServiceNow導入前>



<ServiceNow導入後>



6. デモ① Roleベースの可視化

Roleベースで見たい情報を見れるDashboardのご紹介

Role	欲しい情報	ServiceNow SecOps Dashboard
CIO/CISO	<ul style="list-style-type: none">脆弱性対策状況の概要を一目で把握できるKPI	<ul style="list-style-type: none">CISO Dashboard
Managers	<ul style="list-style-type: none">優先順位と期間ビュードリルダウンで必要なビューに遷移可能	<ul style="list-style-type: none">Vulnerability Explorer Dashboard
Analysts/ Operator	<ul style="list-style-type: none">リアルタイムビューが必要明確な優先順位付けが必要ドリルダウンで必要なビューに遷移可能	<ul style="list-style-type: none">Vulnerability Explorer Dashboard

7. デモ②Tenable×ServiceNow 脆弱性対応の流れ

実際の脆弱性対応の流れをご紹介します



8. Tenable×ServiceNow導入のメリットまとめ

1. 膨大な脆弱性も**グループ化**して容易に対応可能
2. 脆弱性の状況が**常に最新**になり脆弱性対応状況を**網羅的に可視化**
3. インシデント対応、変更管理との**シームレスな融合**

servicenow   tenable® Integrated by  NTT Communications

9. 参考 Tenable×SecOps VR 導入効果

	Before	After
セキュリティ (Security)	<ul style="list-style-type: none"> 継続的な脆弱性管理をおこなうことにより、脆弱性への対処が困難 	<ul style="list-style-type: none"> 継続的な脆弱性管理によって、システム内が常にセキュアな状態に保たれる
可視化 (visibility)	<ul style="list-style-type: none"> エクセルによる機器の管理のため、最新の状況が不明。 脆弱性がどの程度生じているかについて、最新の状況を可視化 	<ul style="list-style-type: none"> Tenableによって自動的に管理外端末の把握が可能になる 脆弱性の状況が常に最新になり脆弱性対応状況を網羅的に可視化
Quality 品質	<ul style="list-style-type: none"> どこから対処すべきか確認に時間を要する 抜け漏れなく対応できたかの確認が必須 	<ul style="list-style-type: none"> 一貫性のある対応ワークフローを自動適用 迅速かつ確実に脆弱性を発見できるようになった。(A社) 膨大な脆弱性もグループ化して容易に対応可能 NISTのフレームワークに沿った対応
Cost 価格	<ul style="list-style-type: none"> 脆弱性対応に必要な対象機器の抽出が手作業であり非常に工数がかかる。 攻撃の多くは既知の脆弱性を突いて行われ、脆弱性対応に膨大な稼働がかかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 脆弱性対応のプロセス化、優先順位付け対応で稼働を60%削減した。(AMP) 現状把握の労力を削減。パッチ適応作業など実対応作業に注力可能
Delivery 納期 入手性	<ul style="list-style-type: none"> 誰が対応すべきかの確認に時間を要する 対処が完了するまでに膨大な時間を要する 	<ul style="list-style-type: none"> 解決時間を30%削減できた。(B社) 脆弱性対応が必要な対象機器のリスト化、見える化を行い、関係部門、関係者への対応依頼を迅速化
Flexibility 柔軟性	<ul style="list-style-type: none"> 組織の分断 マニュアルな作業 	<ul style="list-style-type: none"> インシデント対応、変更管理、問題管理とのシームレスな融合 組織を超えた連携